

【表 2】 研究領域の基礎的評価と集中して取り組むべき時期

「脳科学と教育」研究の研究領域		基礎的評価		集中して研究に取り組むべき時期	
		緊急性	重要性	当面から短期	中長期
(1)教育の役割に応えるための研究	注意力、意欲の増進や動機づけ、創造性の涵養に関する融合的研究	大	大	○	○
	教育課程・教育方法などの開発のための知識の集積に関する融合的研究	中	大	○	○
	生涯学習の推進と高齢期における脳機能の低下への対応に関する研究	中	中	○	○
	脳機能障害の解明と脳機能に障害のある人々の社会参加を目指す教育・療育の推進に関する研究	大	大	○	○
(2)教育を取り巻く環境の変化に対応するための研究	環境要因が脳機能に与える影響と教育への応用に関する基盤的な研究	大	大	○	○
	社会の情報化がもたらす脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	大	大	○	○
	効率化がもたらす脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	中	大		○
	個人化・少子化がもたらす脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	中	大		○
	社会における過剰なストレスがもたらす脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	大	大	○	○
	高齢化社会がもたらす脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	中	大		○
	化学物質の脳機能への影響の解明と教育課題解決への応用	中	中		○
	コミュニケーション能力の育成に関する研究	大	大	○	○
	顕在化する学習障害などに対する対応方策の研究	大	大	○	○
(3)「脳科学と教育」研究を支える研究方法論についての研究	胎児期の行動と脳の計測手法の開発	*	*	○	
	乳幼児から高齢者までの脳の計測手法の開発・応用	*	*	○	
	行動、認知、学習などの機能の行動学的・心理学的測定法の開発	*	*	○	○
	脳の発達と学習に関する理論的研究の推進	*	*		○
	脳関連遺伝子の解析とその発現に関する研究	*	*	○	○
	教育学・社会学・脳科学における統計手法の開発	*	*	○	
	脳の発達に影響を及ぼす環境要因の分析	*	*	○	○
	脳科学と教育」研究に関連すると考えられる動物実験の推進	*	*	○	○

注：緊急性・・・社会的な意義、脳科学などの進捗状況などの視点から評価 重要性・・・教育の改善、福祉の向上、経済的な効果の視点から評価

当面から短期・・・5年以内での一応の達成を目標 中長期・・・10年程度での一応の達成を目標 なお、集中して取り組むべき時期については中間評価などにより、適宜見直すことが重要である。

「当面から短期」及び「中長期」の両方の欄に○が記入されている領域については、当面から中長期にわたって集中して取り組むべきであるという意味である。

(1)、については緊急性の評価は「中」であるが、当領域の中に項目数が非常に多く、そのうち一部については「当面から短期」に取り組むことが可能であるため○を付した。

*・・・(3)については(1)及び(2)の研究を支える基盤的な研究であり、いずれも早期に着手すべき課題であるため、基礎的な評価の対象に含めていない。